
ジューン・ブライド

じゅう・かわせみ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ジューン・ブライド

【コード】

N42340

【作者名】

じゅう・かわせみ

【あらすじ】

6月のある日曜日、私はキミの写真を眺めながら思い出にひた

梅雨の合間の青空が心地よい、日曜日の午後。

私は、テーブルの上に、キミの笑顔が写った写真を置いて眺めていた。

結婚式まであと一週間。その日は私の誕生日でもある。
誕生日に結婚式だなんて狙いすぎかな？

私さあ、ジューン・ブライドって小さい頃からずっと憧れてたんだよ。

キミと高校で出会って、初めての誕生日。

その何日か前にキミと一緒に帰ったとき、私の誕生日が近いんだよ、って言ったらキミはびっくりしたよね。

プレゼントを催促したみたいに聞こえちゃったかな？

でも、キミは私にプレゼントしてくれた。

話題の恋愛映画のチケットを2枚。

あれがキミと私の初めてのデートになったんだよね。

今でも憶えてる。一生の思い出。

キミと出会って、2年目の誕生日。

あの日は日曜日だったから、キミはわざわざ私のうちまで持ってきてくれたんだよね。

プレゼント自体も勿論嬉しかったけれど、持ってきてくれたことの方が私には嬉しかったな。

それから私の部屋で話に花を咲かせたんだよね。

あの日、私の唇に触れたキミの唇の感触が、もう子供じゃないって気づかせたんだよ。

この時私はキミとバージンロードを歩きたいと初めて本気で思った

んだ。

今でも憶えてる。一生の思い出。

キミと出会って、3年目の誕生日。

あの日は放課後に二人で喫茶店に寄ったんだよね。

誕生日プレゼントの入った小箱を渡されて。

そしてキミは私の目を真剣な目で見つめて言ったよね。大切なことを。

聞いた途端、涙が出そうになったよ。

でも私はぐつとこらえて、キミに笑いかけてみせた。

今でも憶えてる。一生の思い出。

テーブルの上のハガキに手を伸ばす。

そこにはキミの笑顔が写った写真。キミの隣にはキミ以上の笑顔を浮かべる女の人。

結婚しますと書かれた、結婚式の招待状。

ねえ、キミの誕生日に結婚式をするのはいいけどさあ、その日は私の誕生日でもあるんだよ？

アハハ。もう忘れちゃったんだろうね、私の誕生日なんて。

私だって、キミが私のプレゼントをつき返して別れを告げた時から、ずっとキミのことを忘れようとしていたんだよ。

でもキミの直筆の文字を見たとき、懐かしくって全部思い出しちゃったんだ。みつともないよね。アハハッ。

キミと私の6月のメモリー。

誕生日を迎えるたびに刻まれてきた、グレープフルーツのように甘くてちよつと苦いメモリー。

そしてもうすぐ、最後のメモリーが刻まれる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4234o/>

ジューン・ブライド

2010年10月21日04時35分発行